

初等部 3 年 畑の発表

サツマイモ

呼野 詩織

サツマイモを育てる体験を通して、自分が疑問に思ったこと、感じたことをいろいろな方法で調べ、まとめることを中心に展示ブースを作りあげた。また、調べたことを基に報告文をそれぞれが考えて、ステージで発表をした。初めての「畑の発表会」で子どもがサツマイモに興味関心をもち、自ら学ぶ姿勢を大切に取り組むことができた。

I. はじめに

初等部 3 年生は毎年サツマイモを育てているので「サツマイモ」について学習したことを畑の発表会で発表することに決めた。初めて担任をする組で、初めて育てるサツマイモを、「子どもと一緒に育てること」を目指し、1 年が始まった。子どもが自ら興味をもち、疑問に思ったことを調べること、調べてもわからないことに対して、調べたことや知識を基に理由を考えること、わかったことを組で共有することを大切に、3 年生みんなで成長することを考えて指導をしてきた。

II. 報告会までの学習・準備

○ 5 月

<導入>

3 年生にサツマイモを育てることを伝え、子どもが今知っているサツマイモについて話し合った。

<畝作り>

サツマイモは水があまり必要ないので、高さのあるかまぼこ型の畝を作った。

<苗植えの方法>

植えた直後は水をたっぷりあげることが大切なので、休み時間や放課後に水やりを行う。

<水やり>

水やりが足りなかったため、根付かなかった苗があった。再度苗を植え直す。水を根元にたっぷりやることや日中の気温の上がる時間をさけて水やりをするように注意して、水やりを続ける。

○ 6 月

<草取り>

葉がどんどん大きくなり、雑草も元気にのびてきたため、草取りを定期的に行う。全員で草取りをす

る機会をもつことで、雑草の成長の早さに驚きながらサツマイモの葉の成長を観察できた。

○ 8 月

<夏休みの学習、課題>

今まで育ててきて、疑問に思ったことや知りたいことを調べた。一人一人がよく取り組んだ。

○ 9 月

<発表会に向けて>

畑の発表会まで、どのように学習を進めていくか、計画的に準備することを確認した。

教室にサツマイモに関連する図書を約 30 冊常置して、いつでも調べ学習ができる環境を整えた。

<調べ学習開始>

2～3 人のグループを作り、調べてきたことをさらに詳しく調べることを始めた。

○ 10 月

<まとめ>

グループごとに調べたことを、大きな紙にまとめるための下書きをした。3 年生にとって摸造紙サイズの紙にまとめを書くことは初めての経験なので、5 年生夏休みの宿題「食のものを探る」や、6 年生のじゃがいもについてのまとめを参考にした。大きな紙に要点をまとめること、字の大きさや図や絵を入れて見やすくすること、来場者が 6 才以下の子どもを対象としていることを意識して取り組んだ。

<農家の方との交流>

東久留米市でサツマイモを育てている農家の方に子どもたちの質問に答えていただいた。実際に育てていて疑問に思ったことや調べたけれどわからなかったことを聞くことが出来て子どもたちのサツマイモに対する興味関心がさらに深まった。

＜サツマイモの味比べ＞

農家の方にいただいたサツマイモ3種類の味比べをした。色や見た目、においや味、食感、甘さの違いをそれぞれ感じながら喜んでサツマイモを味わった。

○11月

＜収穫＞

掘る時にサツマイモがどの向きで伸びているのか考えながら掘った。根が30cm以上も地下に続いているので、切れないように掘り進めることもあった。収穫体験を通して、サツマイモに対する思いをさらに強めた。

＜サツマイモのツル＞

次の日、ツルは食べられるか調べていた児童が、食べてみたいと持ち帰ったり、ツル同士で引っ張り合ったり、木に何本もツルをかけてぶら下がってツルが集まることで増す強度を感じた。そのほかに、冠を作ったり腰に巻きつけてファッションショーをしたり、思い思いにツルの使い方を考えた。ツルは土に戻ることも学習した。

＜かんころもち＞

図書館の船木先生から、出身地の長崎県の名産品である「かんころもち」のお話を聞いて、実際に食べることで、サツマイモを使った名産品があることを知った。

＜新聞作り＞

一人一人が学習したことを新聞にまとめた。新聞作りは行事の後や教科の学習でも取り組んできた。

＜展示＞

展示ブースに掲示するまとめを完成させることに予定以上の時間がかかったが、終わったグループが清書を手伝うなど協力をして、展示準備の前日に全てのグループのまとめが完成した。

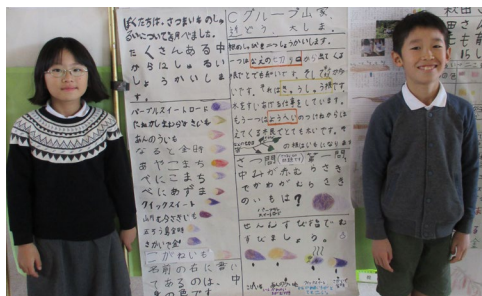
＜報告文＞

グループごとにまとめたことを基に、さらに自分の考えを一人一人がまとめ、組の報告文を考えた。

自分の考えを報告文にしたことで、練習時間は短かったが自分の言葉に自信をもって発表の練習を重ねた。

＜畑の発表会当日＞

当日は午前に登校するグループと午後に登校するグループと2つに分かれた。全員が発表をして、ブースでお客様に説明、話しをすることができた。



III. 報告の内容

＜サツマイモの名前の由来＞

鹿児島県のサツマ地方から伝わり、サツマイモと名づけられたことに子ども達は驚いた。

＜農家の方にインタビューをしたこと＞

埼玉県川越市でサツマイモを育てている農家の方と、アフタースクールで畑の指導をしている方と、東久留米市でサツマイモを育てている農家の方にインタビューをして、疑問に思ったことや自分なりの考えを聞くことができ、サツマイモについてさらに興味を持ち、子ども達は理解を深めるきっかけとなった。

＜サツマイモの味比べ＞

東久留米市でサツマイモを育てている農家の方からいただいた3種類のサツマイモを薄く切って焼いて食べ比べた。それぞれ視覚、触覚、嗅覚、味覚に違いがあることを実感した。

＜サツマイモのツル＞

サツマイモを食べたことがあるけれどツルは食べたことがないので調べることにしたが、詳しいことはわからない。そこでなぜツルのことは書いているかを考えた。サツマイモは昔、戦争の終わった時代によく食べていた。その当時はツルもよく食べていた。しかし、今は手に入りづらいこと、他においしい食べ物がたくさんあること、調理に手間がかかることから食べる機会が少ないのではと考えた。実際に子ども達は今回サツマイモを収穫した後にツルを持ち帰り、家で金平にして食べてツルは食べられるということがわかった。

＜サツマイモ料理＞

調べていく中で、初等部の昼食に出るサツマイモ料理について詳しく知りたいと思ったので、食糧部の方にインタビューをした。自由学園にしかない料理で「希望満充」と「雪衣」があることを知った。

希望満充は毎年創立記念日に初等部のお食事に出るが、さらに希望満充の由来を教えていただいた。創立者羽仁もと子先生の病気が治った時にお祝いとして食べたことから希望に満ち溢れる饅頭ということで希望満充という名前になったということを知った。

<栽培カレンダー>

サツマイモの成長をカレンダーに表した。育てている時は、子ども達はたくさん予想をして畑に足を運んだ。

5月に植えたときは、水が足りなくて、かれてしまったため理由を考えた。たっぷり水をあげること、横からあげること、あげたあとに土の中をさわってしみこんでいるかを確認することを心がけた。

その後は葉も大きくなりツルもどんどのびていった。サツマイモは水分があまり好きではないが、初めは水がとっても大事だということがわかった。失敗もあったけれどこうやって収穫して報告ができてよかった。

IV. 報告会を終えて

3年生は大きな紙に調べたことをまとめることが初めてだということもあり、発表会までの予定を考え、見直しをもって学習できるように考えた。思うように進まず時間がかかったが、どのグループも自分のことだけでなく組のみんなの進み具合を見て周りを手伝った。展示するための紙の補強や紙を展示するところまで、組のみんなが協力して自分たちが作り上げたという達成感がもてたことがよかった。

また、組を2つに分けたことで、全員が本番1回に緊張感を持って望めた。その後は、全員がブースで、お客様と直接話す機会がもてた。ブースにはグループごとに調べたことをまとめたものや新聞、「いも」というお習字、ツルで作った冠などを展示した。ツルの強さ比べを体験するためのツルも用意した。

畑の発表会当日は、これまでお世話になった方がたもブースに来てくださり、発表会後子どもたちはとても喜んでいました。

今年はサツマイモの収穫量が例年より少なかったことに関して、東久留米の農家の方に畑を見に来ていただいた。今年は雨の多い時期が例年と違い8月だったこと、反対にいつもあまり水やりをする必要のない、6月、7月に雨が少なかったことで、例年より多く子ども達が水やりをすることが必要だったかもしれないというお話を伺った。

サツマイモを育てて子どもたちが一番楽しみにしていたことは、自分たちが育て、収穫したサツマイモを食べることだった。畑の発表会当日にふるまわれた芋の子汁の具に、育てたサツマイモがあるか探しながら喜んで食べていた。

V. 終わりに

「みんなで一緒に、協力していく組」を目指して18人と少ない人数の組だからこそ、「みんなで一緒に」できる機会が多くあった。サツマイモを育てることを通して、子どもたちが成長することができたと感じている。

普段の生活の中で、疑問に思ったことを調べて発表することや、社会の学習で昔の子どもの好きな食べ物がサツマイモ汁なのは、「昔はサツマイモがよく食べられていたからだ」と気がついた。3年生が畑の発表会を生かしてさらに成長する姿に期待したい。



VI. 参考文献

はじめての栽培 サツマイモ 金の星社
農家が教える ジャガイモ・サツマイモづくり 農文協編